

平成27年度

第3回総合教育会議 会議録

(開会 平成27年12月3日)

(閉会 平成27年12月3日)

岐阜県 可児市

平成27年12月3日午後1時29分開会
会場：市役所5階第2委員会室

出席者

富田成輝君（市長）

生駒隆昌君（教育委員）

丹羽千明君（教育委員）

籠橋義朗君（教育長）

小野口裕子君（教育委員）

星野京子君（教育委員）

説明のために出席した者

高木美和君（事務局長）

梅村高志君（学校教育課長）

渡辺達也君（教育総務課長）

出席事務局職員

梅田浩二君（教育総務課総務係長）

本田雄太君（教育総務課総務係）

日程及び審議結果

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

(1) 平成28年度教育費予算について

(2) その他

開会の宣告

- **市長（富田成輝君）** 平成27年度第3回総合教育会議の開催を宣告。

あいさつ

- **市長（富田成輝君）** 年末のお忙しいところお集まりいただき感謝する。本日の議題は、来年度の教育費予算についてである。ご自由に意見を頂戴したいので、ご協力願う。

議題

- **市長（富田成輝君）** 1つ目の議題、平成28年度教育費予算についてであるが、早いもので、来年度の予算編成の時期となってきた。私自身もこれから予算の査定を行っていくが、教育費については、市長が予算を編成し、教育委員会が執行していく形であるため、執行し甲斐のある予算としていきたい。学校長やPTAからも予算の要望はいただいているが、教育委員会からも来年度に力を入れて欲しい点等があればご意見いただきたい。
- **教育委員（生駒隆昌君）** 特別支援学級の児童生徒数は年々増加しているが、育成会への補助金等は頭打ちの状況である。行事等で必要な資材を準備するののままならない状況なので、予算の拡充をお願いしたい。
- **市長（富田成輝君）** 補助金の算出方法が人数×単価であれば人数に応じて増えることになるが、現時点で算出方法が不明のため、一度確認してみたい。
- **教育委員（生駒隆昌君）** ばら教室については、待機児童が出るなど、職員、教材等が不足しているので、全体的な支援をお願いしたい。
- **教育委員（小野口裕子君）** 子どもたちの成長過程において本に親しむことは非常に重要だと考えるが、小学校の図書購入予算が少ないと感じる。先日、今渡南小学校が読書活動に関連して文部科学大臣表彰を受けたことは喜ばしいことであるが、予算不足でぼろぼろになった本を修理しながら対応したり、新本購入が出来ないでいるのが実情である。また、学校によっては読まないような本をたくさん購入して廃棄するような所もあるようで、それでは意味がないので、購入段階での精査も重要である。
- **市長（富田成輝君）** 学校図書予算については、校長会からの要望には特になかったように記憶しているが、事務局は図書費の増額要求をしているのか。
- **教育総務課長（渡辺達也君）** 増額要求をしております。
- **教育委員（丹羽千明君）** 小学校トイレの洋式化を順次進めていただいているが、その速度をもう少し早めていただけるとありがたい。また、ばら教室で対応できない子どもたちをフレビアで受け入れてもらっているが、今後さらに日本語指導等が必要な子

どもたちが増えた場合は、どのように対応するのか。総合会館分室を活用する方法も考えられると思うが。

- **市長（冨田成輝君）** 分室については、建物の耐震基準が満たされていない。現在、駅前に子育て拠点施設の整備を進めているため、その施設完成後は、分室の入居団体等は総合会館に移転してもらい、分室自体は取り壊しを考えている。
- **教育委員（星野京子君）** 学校訪問など、現場を見させてもらう中で全体的に人手が不足していると感じる。学校では、小1プロブレム等の対応でスクールサポーターが不足するとともに、中学校では教頭自らが除草業務に従事するなど、環境整備に従事できる人材を確保いただけるとありがたい。また、ばら教室は、6月に授業も見させていただいたが、人手不足により事務所も空っぽの状況であった。ただし、日本語を学ぶ子どもたちは目を輝かせて一生懸命取り組んでいたもので、職員の増員を是非お願いしたい。
- **教育委員（生駒隆昌君）** スクールサポーター、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー（以降「SSW」と表記。）等については、体制が整いつつあるが、さらに予算を上積みいただければありがたい。加えて、現場の先生方が相談できる窓口として、弁護士資格を持った教員（スクールローヤー）への相談体制についても検討いただけるとありがたい。
- **市長（冨田成輝君）** スクールローヤーは、市の顧問弁護士ではいけないのか。また、そういった人材がいるのか。それ以前の問題として、学校の先生はクレーム対応などに対する勉強が足りないのではないか。なお、学校の教職員は、人事権が県にあるため、市である程度教育を行っても異動してしまう。私自身としては、政令市のように市単独、もしくは可茂圏域で教職員を雇用できれば、各種の研修やふるさと教育なども推進しやすいと考える。
- **教育長（笹橋義朗君）** スクールローヤーについては、今年の夏に学校の管理職等を対象とした研修会で講演いただいた先生とつながりができた。講演会に出席した先生の関心も非常に高かった。
- **教育委員（丹羽千明君）** 先日、いじめ防止専門委員会の弁護士の方と話す機会があったが、クレーム等の対応においては、丁寧、かつ、毅然とした対応が重要であるとのことであった。
- **教育委員（小野口裕子君）** 教職員の保護者等への対応についての研修は、3年ほど前教育講演会で行っているが、まだまだ研修の必要があると思う。
- **市長（冨田成輝君）** 教員は子どもたちの教育をすることが本旨であり、色々なことをやらせすぎだと思う。仕事に関連したクレーム対応等も多少はやむを得ないが、「担

任を出せ」と言われても代わりに対応できるような職員が配置できるのが理想である。
なお、教員の相談窓口については、必ずしも弁護士資格が無くてもよいのではないか。

- **教育委員（丹羽千明君）** 蘇南中にSSWを配置いただき助かっているが、校区の小学校にまで目が行き届くとありがたい。
- **教育委員（小野口裕子君）** SSWについては、まだ本領が発揮されていないのは事実であるが、配置時間を増やすなどして、小学校のうちに芽を摘めるような体制としていくことが望ましい。
- **市長（富田成輝君）** SSWについては、現段階では議会も応援しているが、今後は成果説明を行っていく必要がある。また、予算の増額要求をするのであれば、それに伴ってどのような成果が期待できるか説明していただく必要がある。
- **教育委員（生駒隆昌君）** 中部中では、ケース会議を開催し、子どもの置かれた背景など、色々な側面から子どもの困り感をつかむように努めている。また、全教員が情報を共有し、同じ目線で取り組んでいる。
- **教育委員（星野京子君）** 大阪にSSWの視察で伺った際に、劇的に変わると聞いている。可児市においても、導入当時は中部中が荒れていたが、現在はかなり落ち着いた状況になってきている。本来は、小学校低学年から対応していくことが望ましいと聞いているので、各小学校にも出向けるように、配置時間の増加等をしていただけるとありがたい。
- **教育委員（小野口裕子君）** SSWについては、人材も少ないため、これからまだまだ育てていかなければならない状況である。また、SSWを各学校に配置するのは困難なので、SV（スーパーバイザー）の指導の下、一般教員の中からSSWと同等の働きができるコーディネーターを養成していく必要がある。
- **市長（富田成輝君）** 来年度予算については、これから市長査定を行っていく。議会からも言われているが、義務教育の充実は非常に重要である。学校についていけない子のために、塾のようなものを作ってはという意見もあるが、それは義務教育が充実していないことであり、恥ずかしいことだと考える。義務教育だけでも社会人として十分やっていけるというレベルにまでしなければいけないと考えている。
- **教育委員（生駒隆昌君）** ふるさとを愛するという意味でも、義務教育は重要である。
- **教育委員（丹羽千明君）** 蘇南中は、今年度のスタート時点が946人だったのに対し、来年度当初には979人程になる見込みであり、近い将来1,000人を超える

ような勢いである。しかしながら、人数が多くても全体に落ち着いており、一人ひとりに寄り添う教育に努めていただいている。ただし、このままの勢いだと校区の見直し等も必要になるのではないか。

- **市長（富田成輝君）** マンモス校、小規模校、それぞれに良いところはあるが、適正規模については、教育委員会としてどう考えるかである。逆に、方向性等が決まってくれば私に聞かせていただきたい。なお、蘇南校区は、便利で住みやすい割に比較的土地が安いので、まだ人口が増加するものと予想される。
- **教育長（笹橋義朗君）** 3年前に適正規模の検討を行ったが、その際には、一旦1,000人を超えるが、その後は減少する予測になっていたと記憶している。
- **市長（富田成輝君）** 市としては、人口を増やすのが仕事である。その中で、便利な地域や場所に投資していくのは必然的な流れである。今渡近辺は、まだ人口が増えるのではないかと考える。
- **教育委員（生駒隆昌君）** 広見地区もまだ増加傾向にあるように思う。
- **市長（富田成輝君）** 市内でも瀬田近辺などは人口が増える可能性があるが、色々な条件があるので、予測は難しい。
- **教育長（笹橋義朗君）** 学校規模についても、児童生徒数の予測は難しい。見直し期間を短くして検討していく必要があるかもしれない。
- **市長（富田成輝君）** 保育園の待機児童についても、予測は難しいが、坂戸に保育所ができれば解消するものと考えている。
- **教育委員（丹羽千明君）** 広陵中は生徒が減少傾向である。
- **教育委員（小野口裕子君）** 広陵中については、虹ヶ丘があるため、様子を見ている状況である。
- **教育委員（生駒隆昌君）** 兼山から共和中に通う生徒を中部中にとという考えもあるが、現状ではとても無理な状況である。
- **市長（富田成輝君）** その件に関しては、兼山に住む方々の考えや気持ちが重要だと考える。
- **教育委員（生駒隆昌君）** 先日、共和中組合の教育委員として共和中を訪問したが、生徒も落ち着いており非常に良い環境であった。現時点では、あえて移動を考える必要

性はないと感じた。

- **市長（富田成輝君）** 先日、オーストラリアに出張したが、可児市の子どもたちにも是非出かけて欲しいと思う。クイーンズランド州は、親日家が多く、安全な地域である。訪問したレッドランド市は、40年前の可児市同様、人口増に伴うインフラ整備に追われているが、可児市から子どもたちが訪れた場合には、動物園のバックヤード見学など、色々と楽しませてくれる仕組みを考えてくれている。視野を広げるとともに、英語力の向上にもつながる。また、海外に出かけることで、海外の良さだけでなく、ふるさとや日本の良さも再認識できると思う。
- **教育委員（丹羽千明君）** 今後、オーストラリアとはどういう形で交流していくのか。
- **市長（富田成輝君）** 詳細については、これから検討していくことになる。
- **教育委員（生駒隆昌君）** ふるさと教育という点では、一部の学校でお茶の体験活動も始まっているが、歴史的な背景なども教えていく必要があると思う。
- **市長（富田成輝君）** オーストラリアに行って、日本の食べ物のおいしさも再確認した。
- **教育委員（星野京子君）** 日本は学校給食もおいしいと思う。
- **市長（富田成輝君）** 近く可児高等学校で、18歳からの選挙権について講義を行う予定である。選挙年齢の引き下げについては、マスコミでも各種の報道がされているが、そういうものに踊らされることなく、自分のことは自分で真剣に考えることができるようになってもらいたい。買い物ついでに期日前投票できる市町村もあるが、真剣に考える癖をつけるという観点からも、私自身はあまり好ましくないと考えている。
- **教育委員（小野口裕子君）** 自分の考えをしっかりと持ち、それをきちんと伝えられる人間を育てていくことが大事だと思う。そのためにも、読書は重要で、新聞やニュースなどで世の中の動きを知ったり、旅行などで視野を広めたり、色々な経験を積み重ねることが大事である。
- **市長（富田成輝君）** 自分で考え、決めることができるための読書や教育は、非常に重要である。
- **教育委員（小野口裕子君）** そのためには、小学生のうちからの指導や教育が重要だと考える。

- **市長（富田成輝君）** あくまで私見ではあるが、選挙年齢の引き下げや飲酒年齢の引き下げ（検討中）は、その先の年金支払年齢引き下げの布石ではないかと考えている。

- **教育委員（小野口裕子君）** 先日、教育委員会で杉並区のコミュニティ・スクールについて視察する機会があった。可児市では、エデュース9で地域との連携の基礎が整っているため、さらに積極的に地域を取り込んだ学校運営ができれば、先生方の負担も軽減できると思う。エデュース9を土台として制度化し、一部地域をモデル地域とした取り組みができないか。

- **市長（富田成輝君）** 学校に地域を取り込んだ取り組みをする場合に、校長がバリアとなってしまうケースが往々にして見られる。モデル地域での取り組み等については、まさに教育委員会で議論し、方向性を決めてもらえばよいことだと思う。
政令指定都市のように、教員を自ら雇用している都市はやりやすいと思うが、政令市でないと独自に教員を雇用することは不可能か。

- **教育委員会事務局長（高木美和君）** 中核市（人口約40万人規模）であれば可能である。また、それ以下の規模であっても相談にのるとは言われている。

- **市長（富田成輝君）** 可茂地域であれば可能か。

- **教育長（笹橋義朗君）** 現在、可茂管内の先生の80%程度は管内出身者だと思われる。可茂管内の市町村が同一步調を取れば不可能ではないかもしれないが、色々な面で地域差がありすぎるため、課題は多いと考える。

- **市長（富田成輝君）** 無理をして、教員のレベルが下がってしまっただけでは意味がない。

- **教育委員（生駒隆昌君）** 外国人が増加しているが、外国人だけを別の学校に通わせるような考えはないか。

- **市長（富田成輝君）** 外国人と日本人は基本的には同じ学校に通うべきだと考えている。そういう意味からは、外国人のための学校ではなく、現在のばら教室を充実するなどの検討が必要である。場合によっては、兼山小などの空き教室を利用する等の方法も考えられる。なお、少子高齢化に伴う労働力不足の解消の面からも、外国人は貴重な人材であるという国の考えであるため、国の下支えが必要である。

- **教育委員会事務局長（高木美和君）** 兼山小は、児童数は少ないが教室数も少ないため、空き教室はほとんどない状況である。

- **教育委員（小野口裕子君）** 広陵中や南帷子小には空き教室がある。また、帷子地区であれば蘇南校区からも近いため、交流もしやすいと考える。与えてやっているとい

う意識だけではなく、彼らから学ぶこともあり、それを尊重しながら交流していくことが大事。それが出来ているので、今の蘇南中はうまくいっているのではないかと思う。

- **市長（富田成輝君）** 2つ目の議題「その他」については、特段の議題がないため割愛する。本日は、たくさんの意見をいただき感謝します。

閉会の宣告

- **市長（富田成輝君）** 平成27年度第3回総合教育会議の閉会を宣告。

閉会 午後2時42分